



静岡商工会議所 会頭

後藤 康雄

はごろもフーズ(株) 代表取締役会長

会員満足度日本一の商工会議所をめざして

新年明けましておめでとうございます。新春を迎え、謹んで皆様方のご健勝とご繁栄を心からお慶び申し上げます。

さて、昨年の我が国経済は、前半に持ち直し基調が続いていたものの、夏以降の急激な円高や海外経済の減速、株価の変動などにより、秋以降は足踏み状態となっております。また、失業率が依然高水準にあるなど厳しい状況が続いております。

こうした厳しい経済環境のなか、当商工会議所は、長い歴史を持つ旧静岡と旧清水の商工会議所が一旦解散をし、昨年4月1日新たに設立されました。静岡と清水という特徴ある都市の相互の長所を活かし、あるいは交流、融合させることよって、「日本一柔軟な地域経済力を発揮できる静岡市」に成長させていくことが私たち経済人の責務であると思えます。これを達成するため、11月からの新体制においては副会頭を5名に増員し、新たな事業活動を展開していく体制を整えたところでございます。

当商工会議所は、地域経済の源泉となる「創造的、挑戦的、そして個性あふれる地域企業の育成支援」を重点施策のついでに定め、創業・経営革新・販路開拓・人材育成など地域企業が抱える

様々な課題に対し、ワンストップで気軽に相談できるサポート体制を強化してまいります。加えて、国際ビジネスの支援、地域ブランド化とモノづくり支援、さらには環境対策への支援などについても積極的な取り組みをしてまいりたいと考えております。

一方、魅力あるまちづくりも商工会議所に課せられた大きな課題であることから、中部横断自動車道や清水港などの都市基盤の整備、中心市街地や周辺商店街の活性化、観光拠点の整備と観光誘客の推進などにも力を入れてまいります。特に、観光面では昨年、久能山東照宮の本殿、石の間、拝殿が国宝に指定されることとなり、当商工会議所としても周辺の名所と合わせ、回遊性の向上と地域の活性化につながるような取り組みを進めていく必要があるものと考えております。

このような魅力あるまちづくりを推進するにあたっては、会員の皆様の声に耳を傾け、地域総合経済団体として国・県・市に対して効果的な政策提言を行い、行政と両輪となって地域の活性化を目指してまいります。なお、以上のような方針を内外に明確に示すため、現在当商工会議所では本年4月から3カ年の「中期行動計画」を策定しているところでございます。

この中期行動計画は、計画期間の最終が2013年度であることや、期間内に13000会員を達成するという意欲的な目標設定をしていることから、「TAKE OFF 13(テイク・オフ13)」と名付けております。

当商工会議所では、この3年間に全会員事業所を巡回訪問することで「一」を把握し、質の高いサービスの提供を行ってまいります。そして、会員の皆様から真に頼りにされる「会員満足度日本一の商工会議所」となるよう努力してまいります。

また、これを実現していくためには、役職員一同がスピリットを一つにしておくことが重要であると考え、「三つの合言葉」を作成いたしました。すなわち、「会員第二」、「明るくさわやか」、「有言実行」の三つでございます。今後、役職員一同は、この「三つの合言葉」を常に意識し、会員の皆様のため、日々の業務に邁進してまいりますので、皆様方の一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして実り多き年となりますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。